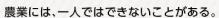


農業応援団

買って応援

食べて応援

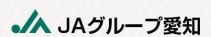
伝えて応援



一人ではできなくても、みんなの力で可能になる。 だから、農業には、みんなの力が必要。

今、日本の食料自給率は、先進国最低の38%。

安全安心な食を守るために 身近な環境を守るために みんなで農業を盛り上げませんか!





農家でなくてもJAの組合員になれる

組合員には「正組合員」と「准組合員」の2種類があります。「正組合員」 も「准組合員」もJAのいろいろな事業のサービスや施設を使うことができ ますが、「正組合員」は農業を仕事にしている人(団体)、「准組合員」は 地域に住んでいる農家以外(注)の人が出資金を出せば、なることができま す。「准組合員」の皆さまは、JAの事業を利用することで地域農業の活性 化に貢献することができます。

※JA事業の利用: JAは、皆さんが事業を利用してもらうことで得た利益 を財源に地域農業振興活動が行うことができます。

(注)組合員加入には、所定の条件等があります。

JA海部東の農業振興に関する取り組みの紹介

安全・安心な農産物を提供するJA、農や食の大切さを伝えるJAの取り組みの一部をご紹介します。こうした活動に要する費用は、 金融事業と共済事業で得た利益を財源に行っています。

●食農教育

農家の苦労と喜びにふれ、毎日の 「食」と「農」のつながりを実感し てもらう活動を行っています。栽培 のしかたなどを学習する農業体験の 場を提供しています。



●農業体験・農業塾

野菜やお米を栽培したり、農業体験ができる場を提供しています。栽培のしかたを学ぶ講座を開いたり、これから農業を始めたい人のサポートを行ってます。

●料理教室

子ども料理教室、親子料理教室、 女性部料理教室など、地元の食材 を生かしたいろいろな料理教室が 開かれています。







農家を助けるために、みんなができること

安い農畜産物が売れている

「安全で安心な食べものを家族に食べさせたい」というのは皆さんの願いです。ところが最近は安全で安心な食べものよりも、できるだけ安い食べものを買い求める人が増えているそうです。

今、日本には不況の嵐がふきあれていて、会社が潰れてしまったり、お給料が減らされたり、生活費をできるだけ切りつめなくてはならない家庭も少なくありません。 食費を節約するために、輸入された安い農畜産物が以前よりも買われるようになり、 国産の農畜産物は売れなくなってきているそうです。

農畜産物の「値下げ」で農家は大ピンチ

そして、スーパーなどのお店では、できるだけ安い農畜産物を買ってもらえるように と安売り合戦をするようになりました。

農家にも、「スーパーで安売りをしたいからできるだけ安い値段で出荷してほしい」というお願いがきます。しかし、それは農家にとってはとても難しいことです。どうしてでしょう?

農畜産物をつくるために必要な肥料や飼料、ハウスの暖房などに使う石油の値段が 値上がりしているからなのです。

本当は値上げをしなくてはならないのに、値下げをしなくてはならず、農家はとても 困っています。このままでは赤字になって、農業を続けていくことができなくなってし まいます。日本の農家の大ピンチです。

農家を助けるために、みんなができること

この大ピンチをどうしたらきり抜けることができるでしょう?

「困っている農家を助ける方法なんかわからないや」「農村から遠くはなれているから助けることなんかできないや」って思う人もいるかもしれません。

でも、だれにでもできる農家を助けるとてもよい方法があるのです。

それは皆さんがお店で「地元の農畜産物を買う」ということです。自分のウチでお料理を手づくりすれば食費を節約することができます。「地元の農畜産物を買う」ということは、おいしくて安全・安心な食べものを食べることができるだけでなく、「地元の農家を助ける」ことにもなるのです。

農家と農業を買い支えるということ

また、皆さんが「地元の農畜産物」をたくさん買えば、「地元の農家」にお金が入り、 農家は農業をずっと続けていくことができます。買うことで助けることを「**買い支える」** といいます。

これは皆さんの町の商店街を守りたいときにもあてはまります。近所のおとうふ屋さんのおとうふが好きだったら、そのお店でおとうふを買いましょう。そうしたらそのお店は閉じることなく、ずっと皆さんの町でおとうふを作り続けることができます。お店でモノを「買う」ということは、とても大きな意味を持っているのです。

☆ どうして農業を応援するの?

農業には、いろいろな役割があります。

安全安心な食料の確保



環境保全



たとえば、水田の貯水機能は洪水の 発生を防止する役割をはたします。 田の水面からの水分の蒸発や、作物 の蒸散により空気が冷やされ、暑さ をやわらげる効果もあります。

でも、農業はきびしい状況にあります。

1995年

256万人



農業従事者の減少

2016年 **159万人**

耕作放棄地の増加

1995年 **24.4万ha** 2015年 **42.3万ha**

だから、みんなで農業を応援しましょう!

買って応援



JA農産物直売所では、 新鮮な野菜を販売しています。

食べて応援



おにぎり10個で 1㎡の水田が守られます。

伝えて応援



『〇〇っていいね!』

手伝って応援



農地の保全活動



援農ボランティア

